

閉会セッション

柘植綾夫：この会議の最も際立った特徴は、ナショナル・イノベーション・システムとグローバル・イノベーション・エコシステムという2つの異なるパラダイムを1つの表にまとめた点にありました。セッション1で私たちはナショナル・イノベーション・システムを列挙し、ナショナル・イノベーション・エコシステムが国ごとに非常に異なることを学ぶと共に、教育、基礎研究、並びに社会及び経済的価値の創造に対する共通の課題を改めて確認しました。私たちがナショナル・イノベーション・システムと共にグローバル・イノベーション・エコシステムについて共通の概念を示そうとしたことは大きな成果です。しかし私たちは、グローバル・イノベーション・エコシステムの明瞭な共通概念にまだまだ達していないという事実を認めなければなりません。本日私たちは、3つの並列のセッションにおいて、経済社会的価値の創出へ向けたサイエンスの資本化、人的資本及び科学技術に基づくイノベーションの創出についてそれぞれ議論しました。そして午後には非常に実り多いタフなパネル・ディスカッションを行い、イノベーション・エコシステムの重要な要素の構造を把握しようと努めました。問題点は、持続的成長のためにいかに協力してこれらの2つのタイプのイノベーションを促進するかであります。そして複雑で明確な答えを見出すことはできませんが、解決への幾つかの道筋を見出しました。この3次元の模式図は、「エゴ（利己）」システムを「エコ」システムに転換するという視点を強調しています。明瞭な共通概念がいまだ明らかなでないとしても、私は、参加者がみなグローバル・イノベーション・エコシステムの実現に向けたあらゆる役割を果たすことを望みます。

日本政府は、イノベーションを創出するための包括的戦略と共に科学技術の第3次基本計画を発表しました。この第3次基本計画の基本姿勢は、科学技術が、公的支援を得て社会と世界に便益を創造すべきであるということです。

最後に私は、2日間の討議から3つの点を強調したいと思います。1点目は他の人々から学ぶということであり、2点目は、グローバルな視点からの個々のナショナル・イノベーション・エコシステムを統一しながらも、同時にイノベーション・エコシステムの外側にいる人々を忘れないことです。さらに3点目は、物質主義だけに限定されることなく、視点を人文科学から人間の精神面にまで拡大する必要があることです。

石倉洋子：昨日の朝に会議を始めた時、私は、今回の会議には目標が2つあると申し上げました。第1の目標は、2日間の会議の終了時点で「グローバル・イノベーション・エコシステム」とは何かについて、ある程度明確なイメージを作ることでした。この点から考えると、先ほどのラップ・アップ・パネルでは、『場』の枠組みを階層で考えるなど、当初の目標を超えた議論が出てきました。このモデルがどのようなものなのかに

ついてまだはっきりとは分かりませんが、この会議の基本概念自体がまだ発展途上にあるものなので、これから議論を続けていけば良いと思います。

第2の目標は行動を志向することでした。2日間の会議を通じてイノベーション・システムに関する意見の交換、ベスト・プラクティスの共有、イノベーション研究のネットワークの構築など、今後知識やデータベースをやりとりするプラットフォームができつつあると思います。この会議は、グローバル・イノベーション・エコシステム探求の第1歩に過ぎず、探求の旅はまだ始まったばかりです。今後、活動を続けて、成果に結びつけたいと思います。

黒川 清：世界の人口は65億人に至り、この人口はこの地球の資源と両立できません。私たちには自由に活用できる科学技術があります。とはいえ、私たちの住む世界は脆く壊れやすい世界です。今回の会議で、私たちはイノベーションについて多くのすばらしいインプットを得ることができましたし、最終のステートメントにみなさんの見解の数々を盛り込むつもりです。そこから次のステップのことを考えましょう。私たちは、今後も科学者としての社会的責任について検討を重ねて行きたいと思いますし、みなさんの知識、経験及び知恵を共有したことで、引き続き検討することができます。私たちは、次世代に投資し、そして科学技術の将来の発展のために窓を開け放たなければなりません。